

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:宮平美沙乃 所属:沖縄県立泡瀬特別支援学校

記録日:2017年2月21日

キーワード: 表現 自己肯定感 自己有用感

【対象児の情報】

・学年

高等部2年生の男子生徒

・障害名

脳性まひによる四肢機能障害、知的障害

・障害と困難の内容

- ①文章を考えることが好きだが、これまで教師の代筆等の支援のもとで文章を表現し、教師に確認しながら自分の考えを文章に表現してきたため、自分一人の力で考えた文章に自信がない。
- ②身体のみにより様々な場面で周りに支援を必要とすることが多く、相手のために何かをする機会が少ないため、自己有用感が低い。
- ③余暇に「SNSやメールを使ってみたい」と思っているが、「自分が書いたものが相手にどう思われるか怖い」、「難しい文章を読むことができないため、迷惑メールが届いても迷惑メールだと分からない」と話し、SNSやメールを使うことに対して不安を持っている。

【活動目的】

・当初のねらい

生徒の好きな活動である文章を表現することや朗読することを通して、自分にできることに目を向け、自己肯定感を高めてほしいと考えた。また、自分が作ったものを周りの人々に聞いてもらったり、読んでもらう機会を作り、人に喜んでもらう経験を重ねることで、生徒の自己有用感を高めたいと考え、以下の3点を学習目標とした。

- ①代筆してもらっている場面からiPadによって自分自身で文章を書き留め、読み返し、訂正したり加筆したりすることで、自分の考えや気持ちを表現することができる。
- ②人との関わりを通して「自分ができること（得意なこと）」に気付く。
- ③メールやSNSを活用して人と関わったり、人に発信できる力をつける。

・実施期間

H28.4月からH29.2月まで

・実施者

宮平美沙乃

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

- ①文章を考えることが好きだが、代筆や手添え等の支援がなければ考えたことを書き留めることができない。
- ②身体のみにより様々な場面で周りに支援を必要とすることが多く、相手のために何かをする機会が少ないため、自己有用感が低い。
- ③SNS やメールを使いたいと思っているが、「迷惑メールに迷惑メールだと気づかなかつたらどうしよう」、「友達からのメールの漢字が読めなかつたら恥ずかしい」などと、使うことに対して自信がなく不安を持っている。

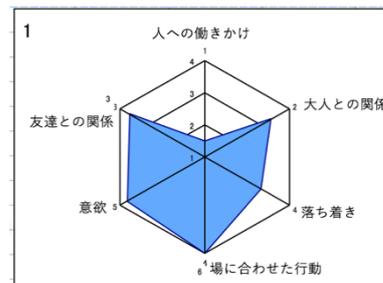


図1:対象生徒の自尊感情や自己肯定感の傾向(4月)

※図1の参考資料:

東京都教職員研修センター「自尊感情や自己肯定感に関する研究」,

『平成23年度東京都教職員研修センター紀要 第11号ほか』

(<http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/09seika/reports/bulletin/h23.html>)

る。

・活動の具体的内容

活動1 代筆してもらっている場面から iPad による文章の書き留め・読み返し・



訂正・加筆を行う。

- ・メモアプリを使って文章を書き留めたり、瞬間日記アプリ・Keynote アプリを使って日記をつける。
- ・書き留めたことを読み返し、確かめ、文章を訂正したり、書き留めたことを詩や俳句に作り変えたりして、自分の考えを深める。
- ・自分が書き留めたことを作品として周りの人に読んでもらったり、聞いてもらう。

文章を考えることが好きな生徒は、代筆の支援がなければ自分の考えたことを書き留めることができなかった。そこで、まずは代筆の支援なしに、生徒自身の力で文章を入力し、入力したものを読み返したり、自分で訂正したりできるようになることをねらい、iPad を活用した。アプリとして、文章や写真をメモに残すことができるメモアプリや、その時思ったことを文章や音声、動画として記録することができる「瞬間日記」アプリ、写真や文字を簡単に挿入し、自分でデザインを自由に変えることのできる Keynote アプリを使用し、生徒が周りの支援がなくても自分の考えを書き留めることができるようにした。

生徒が書き留めたことを就業体験報告会(7月)や学習発表会(12月)などの場で書き留めたことを周りの人に発表し、生徒の考えを聞いてもらい、認めてもらう機会を作った。

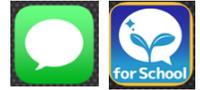
活動2 自分が好きなこと(声に出して文章を読むこと)を友達と一緒に取り組む。



- ・友達と一緒に絵本の朗読に挑戦する。
- ・朗読を録音し、学校内の職員や生徒に聞いてもらう。

生徒は身体の麻痺により、様々な場面で周りに支援を必要とすることが多く、相手のために何かをする機会が少ないため、自己有用感が低い。そこで生徒が、自分にできることに目を向け、自己肯定感を高めることをねらい、生徒の好きな活動である「声に出して文章を読むこと」を友達と一緒に取り組んでもらった。

活動3 インターネット検索、メール、SNS のやり方、マナーを身につける。



- ・外出先や修学旅行などの行き先の情報をインターネットで検索し、情報を得る。
- ・教師とメッセージアプリを使ってメールのやり取りをする。
- ・バイトクアアプリを使い、生徒・教師間から、生徒・クラスメイト間へ交流を広げ、クラスメイト同士でメールのやり取りをする。

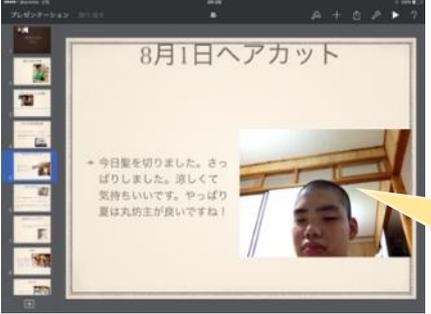
活動を進めていく中で、生徒は「Youtube にコメントをしたい」、「SNS を使ってアニメ好きな人と友達になりたい」と学校外の人と繋がりを持ちたいと考えるようになった。生徒が SNS を安全に楽しく活用できるようになることをねらい、教師と生徒、生徒同士で連絡を取りあった。

・生徒の変化

活動1 「代筆してもらっている場面から iPad による文章の書き留め・読み返し・訂正・加筆を行う。」

による生徒の変化

	ねらい	活動内容	生徒の変化
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を入力することで自分の考えを書き留めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瞬間日記アプリを使った日記を作成する。  <p>写真1：瞬間日記の一部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代筆の支援がなくても自分の書き留めたことを書き留めることができ、嬉しそうにしていた。 ・日記をつける宿題に対しては、「漢字を1つでも読めるようになることが優先」と言い、1学期は日記の宿題には積極的には取り組もうとしなかった。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #fff9c4; margin-top: 10px;"> <p>20:25 今日は、とくにやることがなかったので家でのおんぼり過ごしました。たくさん体を休められてよかったです。</p> <p>10:32 昨日の夜ご飯は、サンマとゴーヤチャンプルと白米でした。とてもおいしかったです。また食べたいです</p> <p>0:00 今日は、おばあちゃんがこいのぼりおすしを買ってきたのでたべました。ふだんはあまり口にしないのでとてもしんせんでおいしかったです。また食べたいです</p> </div>

<p>6月～7月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識して文章を表現し、プレゼンテーションする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月にあった就業体験の報告スライド作成・発表をする。 (メモアプリ、Keynote アプリを使った文章の書き留めとプレゼンテーション)   <p>写真2：就業体験報告のスライドと報告会の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>思いついたことをメモアプリに書き留めるようになった。</u> ・授業中は文字の入力速度を意識して、タップ入力よりも音声入力を選択し始めた。 ・Keynoteのスライドに入りたい写真を提案し、スライドを作成することができた。 ・<u>就業体験での出来事を同級生や他学年の生徒、保護者や職員に聞いてもらい褒められ、「次はもっと上手にプレゼンできるようにになりたい」と意欲を高めていた。</u> 
<p>8月～9月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Facebook等のSNSを想定し、読み手を意識した文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かに読んでもらうための「写真日記」をつける。 ・書いたものを作品として周りの職員や生徒に読んでもらう。   <p>写真3：生徒が作成した写真日記の一部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動前は、「SNSを使いたいけど文章に自信がない」、「何と書けば良いのか分からない」と言っていたが、夏休みの出来事を写真に撮り、それについてのコメントをつけた。 ・2学期、生徒の作った写真日記が周りの職員に好評で生徒は嬉しそうにしていた。 ・<u>夏休みに作成した「写真日記」を周りの生徒や職員に読んでもらい、「おもしろい」と言われたことをきっかけに、積極的に日記をつけるようになった。</u> <p>今日は髪を切りました。さっぱりしました。涼しくて、気持ちがいいです。やっぱり夏は丸坊主がいいですね！</p>

10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃書き留めたことを読み返し、書き直したり、表現を工夫したりして、考えを深める。 ・書いたものを聞き手に伝わるように朗読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに書いた「写真日記」の中から好きな表現を選び、工夫を加え、詩に作り変える。   <p>写真4：学習発表会での詩の朗読</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の作成は、「家で考えてくる」と言い、自発的に家庭学習をするようになった。 ・出来上がった詩を教師に見せたり、友達にどちらの言葉を使った方がが良いか尋ねるなど、<u>少しずつ周りの人に自分から発信するようになった。</u> ・学習発表会で大勢のお客さんの前で朗読し、朗読を聞いた人から褒められ嬉しそうにしていた。
---------	---	--	---

活動2 「自分が好きなこと（声に出して文章を読むこと）を友達と一緒に取り組む。」による生徒の変化

	ねらい	活動内容	生徒の変化
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員として自分ができるところを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月23日の慰霊の日に向けた絵本の朗読、録音をする。 ・録音したデジタル絵本を給食時間に校内放送で流したり、友達に聴いてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家で朗読の工夫を考えたい」と、<u>「漢字」の練習以外の家庭学習を自分から提案した。</u> ・「後で聞いてください」と自分が考えた読み方の工夫についてどう思うか、教師に自発的に尋ねた。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して朗読し、自分の得意なことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人に伝えたい詩、伝えたい絵本を選び、朗読する。  <p>写真5：デジタル絵本を見て朗読する様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読の「楽しさ」だけでなく「難しさ」に気づき、どの言葉を強調するか、どこで間を置くかなど、工夫を自分なりに考え練習し始めるようになった。 ・授業で朗読に取り組む中で、対象生徒と「一緒に朗読したい」と周りの友達に頼られるようになった。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なことを相手のために活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会でのプログラムのアナウンス係をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で読めない漢字を家族に教えてもらいながら読む練習をしたり、休み時間に<u>自発的にアナウンスの練習をするようになった。</u>

活動3 「インターネット検索、メール、SNS のやり方、マナーを身につける。」による生徒の変化

	ねらい	活動内容	生徒の変化
インターネット検索について	<ul style="list-style-type: none"> インターネットやメールなどを使えるようにする。 (iPadの使い方幅を広げる。) 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用して、校外学習の行き先やバスの路線などの情報を調べる。 メールやSNSを使う上での注意点を生徒指導部が行い、メールやSNSのマナーについて学習した。 LINE株式会社の「楽しいコミュニケーションを考えよう！」のワークショップ教材を用いて、クラスメイトとLINEアプリを疑似体験し、SNSで起こりうる問題（言葉の捉え方の違い、写真の公開など）について学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> バスの路線についての情報のスクリーンショットがしたいと友達からスクリーンショットのやり方を学び始めた。 <u>「迷惑メールを迷惑メールだと気づかなかったらどうしよう」と、SNSやメールを使ってみたと思いながらも不安を持ち、SNSの使用に消極的だった。</u> <u>「SNSを「使いたいけど不安」から「不安はあるけど使ってみよう」へ少しずつ変わってきた。</u>  <p>写真6：クラスでLINEを疑似体験</p>
メールについて	<ul style="list-style-type: none"> メールやSNSの基本的なマナー、情報モラルを身につける。 メールのやり取りができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージアプリを使って、生徒と教師間でメールのやり取りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージアプリを使い始めた当初、教師からのメッセージに返信があったが、夏休みの終わりにはメッセージに気付かず、<u>教師からの大切な連絡に気付かなかった。</u>

<ul style="list-style-type: none"> ・メールのやり取りをする中で出てきた課題を解決する。 ・クラスメイトと連絡を取れるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージや「By Talk for school」アプリを使いながら起きた課題（「返信しない」、「メールを何日も見ない」）について考える。 ・「By Talk for school」アプリを活用して、クラスメイトとメッセージのやり取りをする。  <p>写真7：友達とメッセージのやりとりができるように</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師とのメッセージのやり取りをする中で「<u>メールは定期的に確認する</u>」、「<u>返信は遅れてもする</u>」ことなどのマナーが身に付き始めてきた。 ・限られた教師と生徒間でメッセージのやり取りができる By Talk for school アプリの使用へも期待感を示し、授業で初めて By Talk for school を使った時にはとても楽しそうにしていた。 ・欠席した時に友達からテスト範囲などの情報を送ってもらったり、写真の交換など、<u>友達とのやり取りが増えてきた。</u> ・「アニメ好きな人と友達になりたい」、「旅行に行きたい」など、<u>外出や旅行に興味を持ち出した。</u> ・これまで校外学習以外で友達と外出することはほとんどなかったが、<u>1月末に移動支援を使って友達同士でカラオケに行くことができた。</u> ・友達との外出をきっかけに友達との会話もさらに増えてきた。
--	--	---

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①自分の考えを自分一人で書き留めることができるようになったことで、考えや思いを表現しやすくなったのではないか。
- ②自分の考えが周りの人たちに認められたり、自分の好きな活動（朗読・アナウンス）において、友達に頼られたり、教師に褒められることで、自分の得意なことに気づき、自信を持ち始めたのではないか。
- ③機器を用いてできること（メール・SNS・インターネット検索等）の幅が広がり、やりたいことが増えたのではないか。

・エビデンス

①日記の内容、詩の記述から

- *一人で文字が入力できるようになり、自分のペースで日記を書いたり、感想をまとめたりすることができるようになった。また、学校でできなかったことを家に持ち帰り、宿題として自分の考えを家でまとめてくるようになった。
- *メモや日記に自分の考えを書き留めることができるようになり、日記の語彙や表現に幅が出てきた。

（詳細は下記の日記参照）

(1) 1学期に取り組んだ日記



日記を始めた当初、「楽しかった」、「美味しかった」など似たような語彙や表現を用いる。

(2) 夏休みに取り組んだ写真日記



おばあちゃんが親戚の結婚式に行ってきたお花を頂きました。食卓テーブルに飾りました。レストランに来たみたいで嬉しかったです。

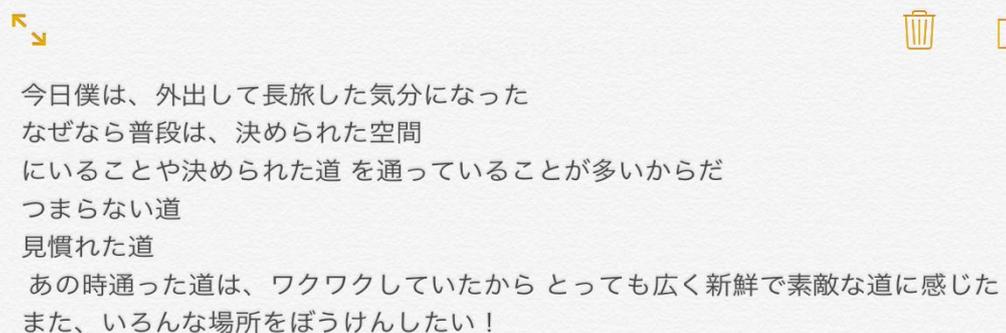


今日は移動支援を使ってメインシティとジャスコゲオドンキホーテに行きました。僕は長旅した気分になりました。とても嬉しかったです。

語彙や話題が広がる。比喻表現を使ったり、読み手を意識した文章へと変化が現れる。

(3) 2学期、日記から詩に作り変える

21:48

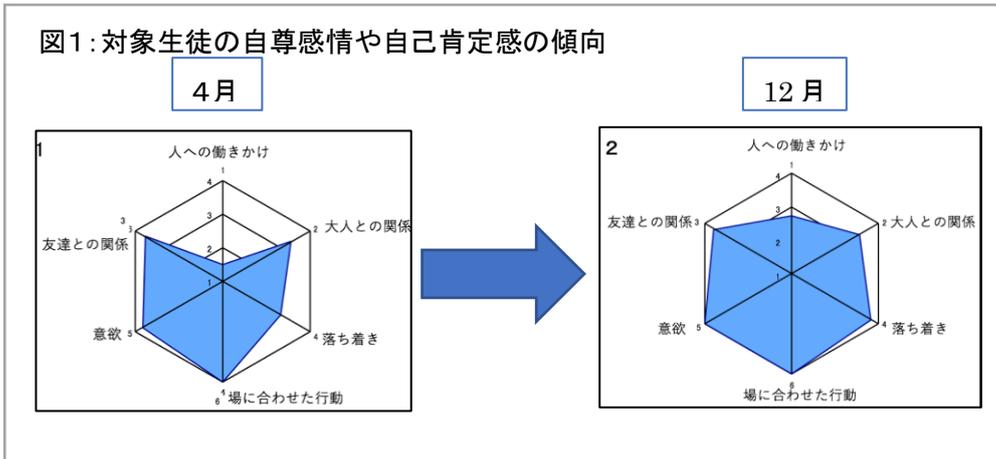


日記に書き留めたことを読み返し、詩に作り変える。書き留めたことを自分なりに推敲できるようになった。

② 周りの教師、友達との関わり方の変化から

- * 支援を待たずに自分でできることは自分でやろうとし始めている。前年度担当の教師より、12月に行われた学習発表会の練習や本番における生徒の様子について「以前は支援を待ったり、すぐに支援をお願いしていたが、自分でできることは自分でやろうとしていて成長している」とコメントがあった。
- * 12月に実施した自己肯定感などを測る質問紙調査でも本人の自己肯定感、自己有用感が向上していることが確認できた。質問紙調査では特に「人への働きかけ」が向上しており（下図参照）、その理由として、日常生活において、多くの支援を必要としていた生徒が支援機器を用いることで、自立できることが増えたほか、自分のできることを通して人と関わる機会も多くなった。これは生徒が人に喜ばれることの嬉しさや人と関わることの楽しさに気付き始めたのではないかと考えられる。

図1:対象生徒の自尊感情や自己肯定感の傾向



③ 「～したい」が増えてきた

「アニメ好きな人と友達になりたい」、「Youtube にコメントしたい」など学校外の人へ興味が出てきた。また当初、生徒は週末は家で過ごすことが好きで、ほとんど自分から外出をしようとしなかったが「出掛けたい」、「旅行したい」など、外の世界にも目が向き始めている。

これまで（過去2年間）、友達に誘われても友達と外出することは無かったが、1月末に移動支援を活用してクラスメイトとカラオケに出掛けている。

・その他エピソード

- * 読めない漢字が多く、漢字の多い文章を読むことを苦手としていたが、同じ内容の文章でも iPad の「読み上げ機能」を使い、読み上げてもらえば、意味を理解できることが分かった。
- * 「撮った写真を読み上げてくれるアプリってありますか」など、支援機器の活用方法を生徒自ら広げようとしている場面も見られた。
- * 電卓アプリなど入れて欲しいアプリを自分から教師にお願いし、数学の時間に活用することができた。
- * 最近の生徒の変化として、授業で学習したことを自分から教師に写真に撮るようにお願いし、メモとして記録するようになっている。



写真8：読み上げ機能を使い文章題に答える様子

・今後の方向性

文章を書き留める際、代筆による支援から iPad を活用したことで、文章を考え、書き留めるという生徒の好きな活動が自分のペースでできるようになった。また、自分が考えたことを周りの人に聞いてもらい、褒めてもらうことで、生徒は少しずつ自分に自信を持ち始め、友達とのメールのやり取りも以前より増え、外出や旅行にも興味を持ち始めている。iPad の活用は、生徒の好きな活動を広げただけでなく、読めない漢字が使われた文章を読むことや計算など、生徒が苦手としていたことを補うことにも繋がっている。

今後の方向性として、生徒が興味を持ち始めた外出についての活動を自分の力でできるようにしていく。外出の計画を自分で立てることや、外出する際のお金の管理など、iPad の活用の幅を広げる。また、移動支援を自分で依頼して外出するなど、福祉サービスを上手に使って自分のやりたいことが自分でできるようにしていく。その際、生徒が困った時に自分から周りの人に質問したり、支援を依頼する力をつけ、困った時も生徒が自分自身で対処できる力をつけていきたい。